今月の農家さん

家族や地域とともに歩む農業

守山市勝部一丁目

小島（こじま） 良和（よしかず）さん（70才）

環境にこだわった特別栽培米『生米（うまい）』を作付されている小島さん。「家族や近所の方に、安全でおいしい物を食べてもらいたい」と、野菜もなるべく農薬は使わず、有機肥料で育てておられます。

そんな小島さんの楽しみは、田植えや収穫の時に、家族が手伝いに来てくれること。みんなで農作業を終えた後には、庭で焼肉パーティーをして、一家団らんするそうです。そんな時に「『おじいちゃんの作ってくれたお米や、野菜はやっぱりおいしい』と言ってもらえると、農作業の疲れも吹き飛びます」と、小島さんは笑顔で話されました。

さらに小島さんは、地域の学校やこども園で、稲や野菜などの育て方を、長年教えておられます。天候によっては収穫ができない事もありますが、それでも、子どもたちにお礼を言われたり、名前を覚えてもらっていたりすることが来年へのモチベーションになっています。

小島さんは「農業に全国共通の教科書はありません。地域ごと、作物ごとに『現場・現物・現実』を見る事が大切だと思います」と話してくださいました。

営農情報

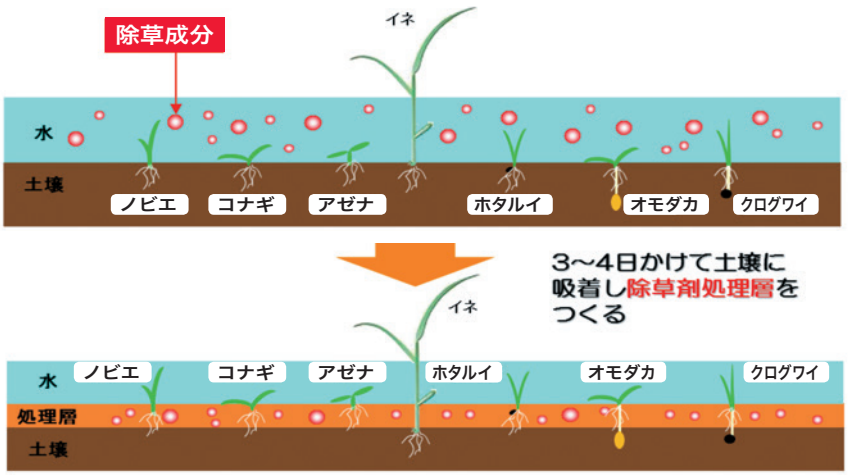
水稲除草剤を使う際のポイント

■代かき作業

田面がデコボコですと除草効果にムラが生じますので、代かきを浅水で丁寧に行い、田面の均平を図るとともに保水性を良くしましょう。また、小動物などの穴や崩れがないよう畦畔を確認しましょう。

なお、水持ち不良の水田では、フロアブル剤やジャンボ剤よりも粒剤を使用した方が効果が期待できます。また除草剤を散布する時は苗を水没させない範囲で水深を5㎝以上に保つと効果的です。

■止水管理

除草剤は溶けだした有効成分が数日かけて土壌表面に薄い除草剤の層（処理層）を作り、この処理層に雑草の芽などが触れることによって除草効果を発揮します。処理層は少しずつ分解されていずれは除草効果がなくなりますが、できるだけ処理層を長持ちさせるため次のような止水管理を行いましょう。

- 田面の露出がないように水をしっかり張り、水口と水尻を閉じる。
- 除草剤散布後1週間は原則として田面が露出しても入水・落水はしない。
- 処理層を壊さないようにほ場に入らない。